

## 平成 27 年度塑性加工春季講演会 「テーマセッション」のご案内

平成 27 年度塑性加工春季講演会（平成 27 年 5 月 29 日（金）～31 日（日）、慶應義塾大学 矢上キャンパス）において、下記の 5 件のテーマセッションを開催いたします。奮ってご応募下さい。ご不明の点につきましては、各セッションのオーガナイザーまでお問合せください。

テーマセッションの特徴は以下の通りです。

- （1）一般講演とは区別してプログラムを組みます。
- （2）特定のテーマに関する講演を広く公募します。
- （3）公募論文の取捨選択や討論時間などの運営方法はオーガナイザーに一任します。（採択されなかった場合には一般講演に回っていただきますのでご了承ください。）

### 記

申込方法 学会のホームページを利用したオンライン申込をご利用ください。

講演申込用ホームページアドレス <http://www.jstp.or.jp>

申込締切日 平成 27 年 1 月 15 日（木）

#### テーマセッション 1 「軽量化・高機能化を支える六方晶金属材料の最新塑性加工技術」

オーガナイザー：千野靖正（産総研）、眞山 剛（熊本大）、只野裕一（佐賀大）、浜 孝之（京大）

協力：プロセッシング計算力学分科会〔主査：湯川伸樹〕

問合せ先：浜 孝之（京大）、E-mail: hama@energy.kyoto-u.ac.jp

マグネシウム合金やチタンをはじめとする六方最密（HCP）構造を有する金属は、これまで使用されてきた立方晶金属に比べて比強度が高い、耐食性に優れている、生体親和性を有するなど様々な特徴を有している。その一方で、HCP 金属は結晶レベルの異方性が著しいため、その塑性加工は困難であることが知られている。本テーマセッションでは HCP 金属の材料創製から成形性評価、各種加工技術、数値解析技術まで幅広く議論し、現状と今後を展望することを目的とする。

#### テーマセッション 2 「新成形プロセスにおけるシミュレーション技術」

オーガナイザー：清水 透（産総研）、湯川伸樹（名古屋大）、桑原利彦（農工大）、高橋 進（日本大）

協力：プロセッシング計算力学分科会〔主査：湯川伸樹〕

問合せ先：清水 透（産総研）、E-mail: toru-shimizu@aist.go.jp

現在、生産現場への導入が拡大しつつあるサーボプレスは任意のモーションコントロールが可能であるが、その成形プロセスの検討には、金型の機構解析を含めたシミュレーション、潤滑特性のモデリング、熱問題や高速変形のシミュレーションなどが重要になると考えられる。また、ホットプレス成形ではもちろんの事、板成形、熱間、冷間鍛造においても、熱や潤滑特性の変化、さらにはその組織まで考慮したシミュレーションが重要である。本テーマセッションでは、このような新たな成形技術とその検討に必要なシミュレーション技術、そのために必要な材料や、潤滑特性のモデリングに関する研究講演を幅広く募集する。

#### テーマセッション 3 「棒線管における材料設計と引抜き加工技術の最前線」

オーガナイザー：増田智一（神戸製鋼所）、齋藤賢一（関西大）、久保木孝（電通大）、青山敦司（新日鐵住金）、  
稲田 淳（神戸製鋼所）

協力：伸線技術分科会〔主査：稲田 敦〕

問合せ先：齋藤賢一（関西大）、E-mail: saitou@kansai-u.ac.jp

本セッションでは、材料、装置、工具、潤滑など引抜き加工に関わる様々な技術領域にスポットを当てている。従来より様々な引抜き加工技術が開発され産業の発展に貢献してきたが、今日においてもその技術は更なる深化を続けている。当日は、各分野に精通した研究者・技術者に引抜き加工に関わる最新技術を報告していただき、技術の更なる発展のための議論の場としたい。

#### テーマセッション 4 「生体医療材料加工技術の最前線」

オーガナイザー：松下富春（中部大）、塩見誠規（工学院大）吉田佳典（岐阜大）

協力：生体医療材料加工技術研究委員会〔主査：松下富春〕

問合せ先：吉田佳典（岐阜大）、E-mail: yyoshida@gi-fu-u.ac.jp

高齢化社会を迎えた我が国において、医療技術の高度化は必須の課題である。中でも人工股関節および人工歯根などをはじめとする体内で使用される生体医療部材、ならびに車いすなどの我々の生活を体の外部から支える製品において種々の構造材料が利用されている。本セッションは生体医療を支える材料加工技術事例を広く集め、今後の生体医療材料加工技術のあり方について議論する。

## テーマセッション5「塑性加工型技術の新展開」

オーガナイザー：相澤龍彦（芝浦工大），吉原正一郎（山梨大），玉置賢次（都立産技研），小松隆史（小松精機工作所）  
協力：金型分科会〔主査：相澤龍彦〕  
問合せ先：相澤龍彦（芝浦工大），E-mail: taizawa@sic.shibaura-it.ac.jp

より過酷な条件での塑性加工あるいは微細な製品の塑性加工などでは，セラミックコーティングを利用したセミ・ドライあるいはドライ環境での摩擦低減，マイクロテクスチャによる潤滑性保持，微細金型による転写成形など，新しいアイデア・新技術が求められる．本テーマセッションでは，被加工材料として金属・プラスチック・酸化物ガラスなど，種々の塑性加工における型技術の展開を網羅し，今後の技術展開の方向性を議論する．特に，難加工材を対象とした新型技術ならびに金属以外の材料を型として利用する方法など，多方面からの発表を期待する．

### 「優秀論文講演奨励賞」について

講演会運営委員会では，塑性加工講演会の活性化と優秀な若手会員の活躍を期待して，新進の研究者・技術者の優秀な論文講演を表彰しております．本賞審査の対象となる方は，**講演発表時に満 35 才以下の会員**です．35 歳以下の講演者で審査を希望される方は，申込時に希望の有無および年齢を選択してください．受賞件数は，分野を偏らないように配慮して，10 件程度とします．ただし，過去に本賞の受賞歴のある方は受賞後 2 年間は欠格期間となります．審査は，座長を含む審査委員による論文内容，発表方法，質疑応答に基づいて，総合的に評価します．優秀論文講演奨励賞の受賞者名及び講演論文名等は，学会誌「塑性と加工」にて公表するとともに，賞状と副賞を贈り顕彰します．